



・発行・
京都障害者
スポーツ
振興会
題字 芝田 徳造

シンクロナイズドスイミングフェスティバル 20周年を迎えて

日本障害者シンクロナイズドスイミング協会会長
森田美千代

障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバルは、今年も海外からの参加者を含む310名の参加で開催することができました。

障害者シンクロナイズドスイミングは、1982年、京都障害者スポーツ振興会が伏見港公園プールで開催していた水泳教室の参加者や指導者の声で始まり、今では毎年開催されている。全京都の水泳大会で練習の成果を発表しようと5人ほどでチームを作り練習を重ね、1983年10月第1回全京都障害者水泳大会で発表をいたしました。以後この大会では、毎回発表をいたします。そして、1988年10月、全国身体障害者スポーツ大会「京都大会」水泳競技の部開始式で、障害の

ある人となない人が共に演技するシンクロナイズドスイミングで、世界で初めて発表しました。それを機会に、他府県でもシンクロナイズドスイミングが増え、発表の場を提供しようということ

で、京都市障害者スポーツセンターを会場に、1992年第1回障害者シンクロナイズドスイミングフェスティバルを開催しました。初めてのフェスティバルを成功させようとスポーツセンターの職員の方々が、石川県まで「フェスティバルをします。出場しませんか」と宣伝に行ったりと奮闘してくださったことを思い出します。第1回目は、54人の参加でした。今では、毎年300名を超える大会となっています。

何故、このようにシンク

口に取り組みが増えたのでしょうか？
障害者シンクロナイズドスイミングでは、当初から現在まで変わることなく大切に生きてきていること（基本的な考え方が6つあります）が

障害のある人もない人も共にシンクロナイズドスイミングというスポーツを共有する。

競技のシンクロナイズドスイミングと技術の違いやできない・してはいけない技術（動き）はあるが、目指すのは同じシンクロナイズドスイミングというスポーツ。

障害がどんなに重度であっても、水の特性を利用しルーターを泳ぐ。ひとりで行ける人はひとり、難しい人はパートナーとともに泳ぐ。（ルーターというものは、音楽に合わせて泳ぐ演技、テレビ放送などで見るものです）

パートナーとの関係は、「介助してもらおう、してあげる」という関係でなく共にシンクロナイズドスイミングの演技者である。

障害のある人もない人も、泳げるようになってからシンクロナイズドスイミングの練習をしながら泳げるようになり、水中での自由を獲得していくとい

うこと。シンクロナイズドスイミングの技術も身につけていくということ。自己の可能性に挑戦し、自己表現すること。

この、6つを大切に続けていくことが多くの方々に受け入れられているのではないかと考えています。色々な泳ぎを楽しむことができるシンクロナイズドスイミング、男女・年齢・障害の有無に関わりなく誰でも取り組むことができるというところ、障害がどんなに重くても水の特性を利用し、パートナーとなる人と一緒に水に入り、一人で行けることは一人で、できないことは助け合って、自分を表現するスポーツとして取り組んできました。音楽と水と仲間が最大の魅力となつて、身体的効果や精神的効果・社会的効果をもたらし持っているのではないのでしょうか。

プールへ行けば、シンクロナイズドスイミングには、体調に気を付けなければと本人や周りの者が意識し、プールへ元気に行くのを努力する。できなかったことができるようになる喜び。シンクロナイズドスイミングには、魅力がいつぱい続きます。
(裏面へ続く)

行事予定	5月	10(火)	丹波障害者のスポーツのつどい	丹波自然運動公園	来月の つどいは 6 / 12 第2日曜日
		15(日)	第45回スポーツレクリエーションフェスティバル	丹波自然運動公園	
			232回障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
	6月	22(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
			5(日)	233回障害者水泳のつどい	
				乙訓障害者スポーツのつどい	
京都障害者スポーツ振興会ホームページ				TEL/FAX075-712-7010	
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/spo-shin/				(2011年4月24日に一部更新)	



(表面より)
これから、この魅力を
より多くの方々に広げて
いきたいと思っています。

もう一つ、シンクロが普
及してきた要因として、京
都障害者スポーツ振興会
はじめ、京都市障害者スポ
ーツセンターの存在が大
きかったと思います。毎週
のようにプール全面を自
由に使用して練習できる環
境は、日本中で京都だけ
です。フェスティバル開催
のために労をいとわず関わ
る人々がいる。だからこそ、
京都から、シンクロは発信
し続けることができてい
るのです。人も施設もシン
クロにやさしい京都。京都
だからこそシンクロは、普
及発展することができた
のではないかと思っています。

スポ振ルネサンス (37)

〜心でつなぐ活動を〜

京都障害者スポーツ振興会

副会長 水谷 裕

スポ振ルネサンス(27)
とスポ振ルネサンス(34)
において、平成24年3月に
新たに実施される予定の
「京都マラソン」の車いす
競技の部についての苦言
や、現状経過を書いてきま
した。

再度要約して書くと、近
年では、各地で開催される
シテイマラソンなどの大
会に車いすのフルマラソ
ンを組み入れたがように
なってきたのに、市か
ら発表をされたマラソン
コースでは、「車いすで走
るのに困難な場所」ばかり
で、車いす競技はフルマラ
ソンの対象と最初から設
定されていず、「京都シテ
イハイフマラソン」の時と
同様に、限られた距離を
走る前座のような設定で、
「車いす競技も入れてい
ますよ」というようなポ
ーズ的なものでしか考え
られていないのです。車い
すの部を当然のように設
けられ、短い距離やハイ
フとして、フルと、障害のな
い人々と同じように、その
人の力量に応じて参加で
き、マラソンに挑戦できる

大会でなければなりません。
障害のある人々のスポ
ーツ活動を支援し、振興を
する「運動体」として京都
障害者スポーツ振興会は、
到底受け入れられるもの
ではないという内容でし
た。

今回は、その後の動きに
ついて書きたいと思いま
す。

今年の3月末に、準備委
員会事務局から会いたい
との申し入れがあり、飯田
理事長、金子事務局長、そ
して私の3人が会い、初め
て公式に話し合いをし
ました。一応の説明を受けま
したが、以前に飯田理事長
が聞かされていた中身と
何の変わりもないもので、
相容れることのまま議論
が進みました。途中で、車
いす競技の部は9キロメ
ートルという事務局案に、
振興会としてハイフ案を
提示し、スタート場所は宝
ヶ池、スタート方法は先頭
通過5分前、コース設定の
うち河川敷部分は並走す
る加茂街道を使用するな
どの提案をしました。

その時に受けた「車いす
競技実施協力依頼」の回答
文において、「障害のある
人たちのスポーツ活動
の領域を広げ、促進してい
く」という当会の理念から

も、微力ではあっても、何
をおいても協力させていた
だくというのは当会の基本
的な立場である」と同時に
「車いす競技の部として併
設(例えば、表彰の部門と
して、登録競技者・男女・
年代別・障害別、あるいは
競技種目として)で実施さ
れるというところは、障害の
ある・なしに関係なく暮ら
せる同等の社会を目指して
健康福祉都市宣言や福祉の
街づくり宣言をされている
京都市のお考えとはどうし
ても理解が出来ない」とい
うことを記し、障害のある
人々が市民として同等に京
都マラソンへ参加できるよ
うに、一考してほしいと、
お願いしました。

この後、4月末になって、
再度、準備委員会事務局か
ら会長代行に会いたいの
申し入れがあり、私と金子
事務局長とで会いました。

何か良い返事をもらえる
のかと期待しながら会った
のですが、やはり、想定ど
おりの返事で、振興会の提
案も含めて検討したが、開
催までの時間的制約やコー
ス整理にかかる人的確保が
困難等々の理由から、ハイ
フは無理で今回は当初案ど
おり車いす競技の部は9キ
ロメートルというものでし
た。

そして、今後の課題とし
て残す旨を告げられました
が、「京都シテイハイフマラ
ソン」の時、5キロという
距離を伸ばして欲しいと毎
回言い続け、変わらないま
ま16回で終わってしまっ
たこともあり、素直に受け
取れないことも事実です。

また、これから立ち上げ
られる実行委員会に入って
欲しいと依頼があったので、
常任理事会において議論を
し、振興会としての意見を
主張すべく、参画して行く
ことを意思決定しました。

京都障害者スポーツ振興
会は、障害のある人々のス
ポーツ活動を支援し、振興
をする「運動体」としての
立場から方向は明確で、今
後も、障害のある人々や障
害者団体といつしよになっ
て、コース設定の再考を求
めて行くこうと思っています。

つどいに車いすで参加
される皆さんへ――
駐車場から入口までの間
に防犯シャッターが設置さ
れた時に、地面がかまぼこ
状に少し盛り上がり、
通るときに危険を感じられ
たことと思います。先日工
事が行われ危険を感じなく
通れるように直して頂きま
した。関係各位への御礼と
共にここに報告します。